

風疹が流行しています

風疹は風疹ウイルスによって急な発熱と発疹を起こす感染症です。生後1歳くらいから大人もかかります。通常は軽く済みますが、重症化する場合があります。麻疹（はしか）ほどではありませんが、感染力が強く、症状の出ないまま人に感染させる可能性があります。不顕性感染といい、感染者の15～30%程度いると言われています。

感染経路と感染期間

咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染が主たる感染経路ですが、その他に、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」があります。発疹が出る7日前から発疹が出た後5日位までは周囲の人に感染させるとされていますので注意してください。

潜伏期間と症状

約2～3週間の潜伏期間の後に発熱し、首のリンパ節がはれます。又、発熱と同じ頃に体に赤い発疹が出てきます。発熱するのは3～4日間ですが、熱の出ない人もいて、多くの場合は風邪程度の症状です。

風疹による発疹 - 顔面および体全体に見られる。



耳後部リンパ節のはれが見られる



(画像出典：国立感染症研究所)

合併症

- 【風疹脳炎】・・・3～5千人に1人におこり、風疹ウイルスが脳に炎症をおこします。
- 【血小板減少紫斑病】・・・3千人に1人にみられ、風疹がなおって数週間後に血が止まらなくなります。
- 【先天性風疹症候群】・・・妊娠初期の女性が感染すると生まれつきの難聴、白内障（目のレンズの部分が白くにごって見えなくなる病気）、心臓病、精神運動発達遅滞などを持った先天性風疹症候群の子どもが生まれます。

風疹は今年の春以降、日本国内で大流行しています。10月以降、全国で6例の先天性風疹症候群が報告されています。

予防接種

特効薬はなく、症状をおさえるための治療が中心です。MR（麻疹風疹混合）ワクチン（定期接種・生ワクチン）で予防します。1歳代と小学校入学前の1年間に2回接種します。保護者も、ワクチンを受けていないか、抗体がなくなっている場合には、必ずワクチンを接種しましょう。又、パパがワクチンを受けていないとパパから妊娠中のママにうつることがありますので、パパも接種しましょう。ただし妊娠中のママは風疹の予防接種をうけることはできません。